



●面接試験に備えよう

進学や就職の試験の多くで面接が取り入れられています。面接試験を受験しないですむ人はまれであると言っていいでしょう。実際、本校でも、たくさんの3年生が先生方から面接指導をしていただいている姿を校内でよく見かけます。

面接試験の準備には、筆記試験よりも手間と時間がかかることがあります。筆記試験では一定の答えを導き出して紙に書けばいいのですが、面接試験の質問は人によって答えがさまざまで、一定の正解がありません。受験者が自分で答えをゼロから作り上げていかねばなりません。また、筆記試験で見られるのは紙の上の答えと筆跡くらいのものですが、面接試験では質問への答えだけではなく、言葉遣い、視線・表情、姿勢・態度・性格、服装・容儀、学校・会社への適性など、受験者そのものが総合的に評価されます。だから、面接試験は小手先のテクニックが通用せず、必ず他の人から客観的にアドバイスをもらいながら対策を講じなければなりません。

本校の面接試験の対策では、担当の先生が事細かに指導して下さいます。答えが質問の内容に的確に答えているか、自己満足に陥らず広く社会に目を向けたものになっているかといったことから、ときには笑顔の作り方や歩く時の手の振り方にまで先生方の指導が及びます。先生方から厳しい言葉をかけられることも少なくありません。その指導の中で多くの人が、このままでは受験生としてはもちろん、学生・社会人として通用しないことに気づくと同時に、自分の不足している部分や弱さに正面から向き合い正していくプロセスを経験しながら、面接試験に対応する力を身に付けていきます。

1・2年生のみなさんにとって、面接試験対策は遠い先の日のことではありません。自分の受験方法を調べて面接試験がある場合、普段の言葉遣い・服装・容儀・身のこなし方をより洗練させることが対策の第1歩です。その上で、先生方からアドバイスをもらい、進路資料室の参考資料、先輩方が残した受験報告書や過去問などを調べて、対策を取りましょう。

面接試験での質問には、次のようなものがあります。

①志望理由

受験先の学校を受験する理由のことです。事前に志望理由書を提出した場合は、その内容を要領

よく説明します。

②高校時代に力をいれたこと

学習・部活・生徒会活動・校外ボランティア活動・社会活動などで、課題を乗り越えるためにどのような思いで行動したかを答えます。

③進学後について

受験先の学校に進学した後の学習計画や留学、アルバイト、インターンシップ、さらには受験先卒業後の展望、人生設計を答えます。

④答えが1つに定まらない質問

「…を解決するには?」「…であるのはなぜ?」など、答える人の勉強ぶりや考え方、人生観が答えに濃く反映する質問です。面接担当者ですら満足に答えを持っていない質問が投げかけられることもあり、思考停止せず粘り強く考え続けながら答えねばなりません。

このような質問によって面接担当者が知りたいと思っていることは主に次の3つです。

①志望理由書などの提出書類を受験者本人が本当に作成したのか。

あつてはならないことですが、受験者以外の人 が書類を記入し受験先に提出することもあり得ると考えて、受験先の学校は、受験者本人でなければ答えられないようなことを質問し、本人確認をします。

②受験先の学校に対する熱意。

面接担当官は、受験者が持つ問題意識や解決策、数ある学校の中で受験先の学校・学部・学科を選んだ理由などあらゆる方向から受験者に質問し、その本気度を知ろうとします。

③志望理由や受験者そのもの。

独創的な志望理由や個性的な受験者に対しては、②以上にあの手この手で質問を重ね、受験者の行動・性格を明らかにし、受験先や社会で活躍できるか確かめます。

面接試験を受ける人は、これらに応じるための準備が求められます。なお、具体的な質問と答えの例が、本校進路指導部発行の『種子高生のための進路の手引き』46～59ページに掲載されています。1・2年生は3年になる前に、担任の先生などからこの冊子を見せてもらい、質問への答えを自分で作り、他の人に見せてアドバイスしてもらおうとよいでしょう。

● 9月宅習時間調査の結果から

普通科を対象に、9月10～16日の7日間、宅習時間調査が実施されました。その集計結果は下の表の通りです。

	平日計	土・日	週合計	携帯電話
1年	10.8	5.5	16.2	7.4
2年	8.2	4.7	12.9	4.8
3年	14.3	8.6	23.0	5.3

(単位は時間)

また、教科ごとの学習時間、さらにこれまでの調査結果との比較をふまえて、係の先生方から次のような分析が出されました。

1年

- 過年度比較で現3年生並の学習時間である。
- 数学の学習時間が他教科より多い。国数英のバランスを取る必要があると思われる。
- 携帯電話使用時間が他学年より多い。

2年

- 週合計学習時間は現3年生より約3時間少ない。
- 平日の学習時間を2時間以上確保する必要がある。

3年

- 過年度比較で、週合計が約3時間多い。5教科をまんべんなく学習している。
- 土・日の学習時間を増やせる余地がある。

上記の集計結果・分析と自分自身の宅習時間を比べて、よりよい学習ができるように心がけましょう。学習時間を確保する上で、次のようないくつかのハードルを越えなければいけません。

①部活動との両立

放課後をめいっぱい部活動にあてて、家に帰ったらバリバリと夜中まで勉強…という理想の「文武両道」を実現できる人はなかなかいないものです。「今は考查が近いから勉強に力を注ごう」「もうすぐ試合が近いから、部活に燃えよう」と時期によって優先すべきことを決めてみてはどうでしょうか。ただし、「テスト前だけど、部活は大切だから勉強は脇に置いて…」「部活に行くのが

面倒。勉強してれば行かなくてもいいよね」と、自分を甘やかすための優先決めにならないように注意しましょう。

②睡眠時間の取り方

睡眠時間が少なく済み、その分勉強時間を多く確保できる人はなかなかいません。多くの方が勉強時間と睡眠時間のバランスで悩むものです。また、毎日を健康に過ごすための適切な睡眠時間は人それぞれで異なるものです。だから、全ての人に通用する理想の睡眠時間を決めることはできません。したがって、体調を崩さない程度に十分な時間を睡眠に回しながら、勉強がたくさん必要な時期には少し睡眠時間を削って勉強時間に回すというように、柔軟に考えるようにしましょう。何よりも勉強することが大切です。

③スマートフォンの付き合い方

上の表では、携帯電話の使用時間が各学年で少なくとも平均5時間以上はあるとの結果でした。毎日毎日30分、1時間とスマホを使い続けているうちに、気がつけば相当な時間をそれに費やしているということでしょう。その「積み重ね」を勉強や部活に振り分ければ、成績がアップしたり試合での勝利できたりするかも…と考えるとスマホと上手に付き合うことが大切だと思いませんか。何気なく触れて使っている、そのアプリが、本当に自分の人生を切り開くのに必要なのか、考え直してみてください。

④「すきま時間」の活用

放課後、家で2～3時間まとめてやるだけが勉強ではありません。勉強に振り向けられる時間は、朝補習の前、授業と授業の間の休み時間や昼食時間、放課後になってから部活動が始まるまでなど、学校にいる間だけでもかなりの時間が勉強に当てられます。そのような「すきま時間」を有効に活用できるようになりましょう。ただ、これらの短い「すきま時間」では、英語の単語、地歴・公民・理科の用語をおさらいするといった暗記物をこなすなど、短時間ですするのにふさわしい勉強をしましょう。数学の難問に挑戦するといった時間のかかる勉強を「すきま時間」でしているようでは、考えるゆとりがなく深い思考力が身に付けられません。